

## 令和7年度 未来都市創造に関する特別委員会 委員長報告（案）

未来都市創造に関する特別委員会の活動状況について、ご報告申し上げます。

本委員会は、神戸市会初の試みとして、市当局が提案する政策を質<sup>ただ</sup>すだけではなく、議会の立場から独自の政策提言を行うことを目指して、平成26年度に設置されました。

設置以来、新たな時代の神戸のまちづくりはどうあるべきかについて、専門的知見などを活用しながら調査・議論を行い、様々なテーマで市長に対して提言を行ってまいりました。

現在、ビジネスや観光などを目的とする外国人や、留学や就労などを目的として国内に生活基盤を移す外国人など、様々な目的で訪日・在住される外国人が全国的に増加しております。

本市においても昨年4月の神戸空港の国際化を契機として、今後もさらなる増加が見込まれます。

こうした状況を踏まえまして、令和7年度は、「新国際都市・神戸～多様な人材が活躍できる都市を目指して～」をテーマとし、特に

- ・ 訪日外国人への対応、観光施策・国際交流の促進
  - ・ 在住外国人との相互理解を中心とした多文化共生
- の2点について、幅広い観点から調査・議論を行いました。

委員会の主な活動として、まず、市内でこのテーマに関連する活動に取り組んでおられる方々のご意見を伺うため、各種団体を訪問し、調査しました。

NPO法人ワンセルフの中野<sup>なかの</sup>みゆき理事長からは、日本語指導や留学生向けのシェアハウス運営などを通じて多くの外国人を支援されてきたご経験や、その中で感じた各種制度の課題などについて、意見交換を行いました。

次に、KOBÉ PR アンバサダーとしてもご尽力されているパク・チョルン様からは、灘区で経営するゲストハウスにおいて、観光地から離れた地域や住民に密着した商店街における交流の魅力について意見交換を行うとともに、当日に居合わせた訪日観光客の方からも実際に体験したお話を伺いました。

次に、一般社団法人 大学都市神戸産官学プラットフォームから、取り組み内容についての説明を受けるとともに、社会福祉法人<sup>ほうおんかい</sup> 報恩会のおく<sup>おくのかずとし</sup>の和年理事長からは、国内外における外国人人材の獲得競争の状況や、外国人人材が安心して暮らせる生活環境や相談体制の必要性などについて、意見交換を行いました。

次に、NPO法人たかとりコミュニティセンターの村上桂太郎<sup>むらかみけいたろう</sup>様からは、多文化共生のまちづくりと人づくりについて、阪神・淡路大震災当時のご経験なども交えながら、意見交換を行いました。

こうした調査活動に加え、東京都や横浜市で実践されている先進事例も参考にしながら、委員間討議を重ねた結果、観光や交流の促進、相談支援体制の連携・強化などの21項目からなる提言書「新国際都市・神戸～多様な人材が活躍できる都市を目指して～」を取りまとめ、去る4月16日に久元市長へ提出いたしました。

さらに、4月24日には、本委員会の活動状況や市長への提言内容を市民の皆さまにご報告するため、市民報告会を本会議場で開催いたしました。幅広い年代の皆さまにご参加いただき、また、事前のご質問や当日のご質問、開催後のアンケートでも多くのご意見をいただきました。市民の皆さまの関心の高さを改めて認識するとともに、我々もいたしましても今後の活動に生かしてまいりたいと存じます。

以上、本委員会の活動状況についてご報告を申し上げます。

当局におかれましては、本市が「多様な人材が活躍できる都市」として発展できるよう、本委員会からの提言内容も考慮しながら、積極的に施策に取り組まれることを強く要望し、委員長報告といたします。